

群 教 七	G01 - 03
	平28.261集
	国語 - 中

中学校国語科における「読むこと」の指導の工夫

— 読みの視点を基にしたジグソー型学習を通して —

特別研修員 神邊 紗耶香

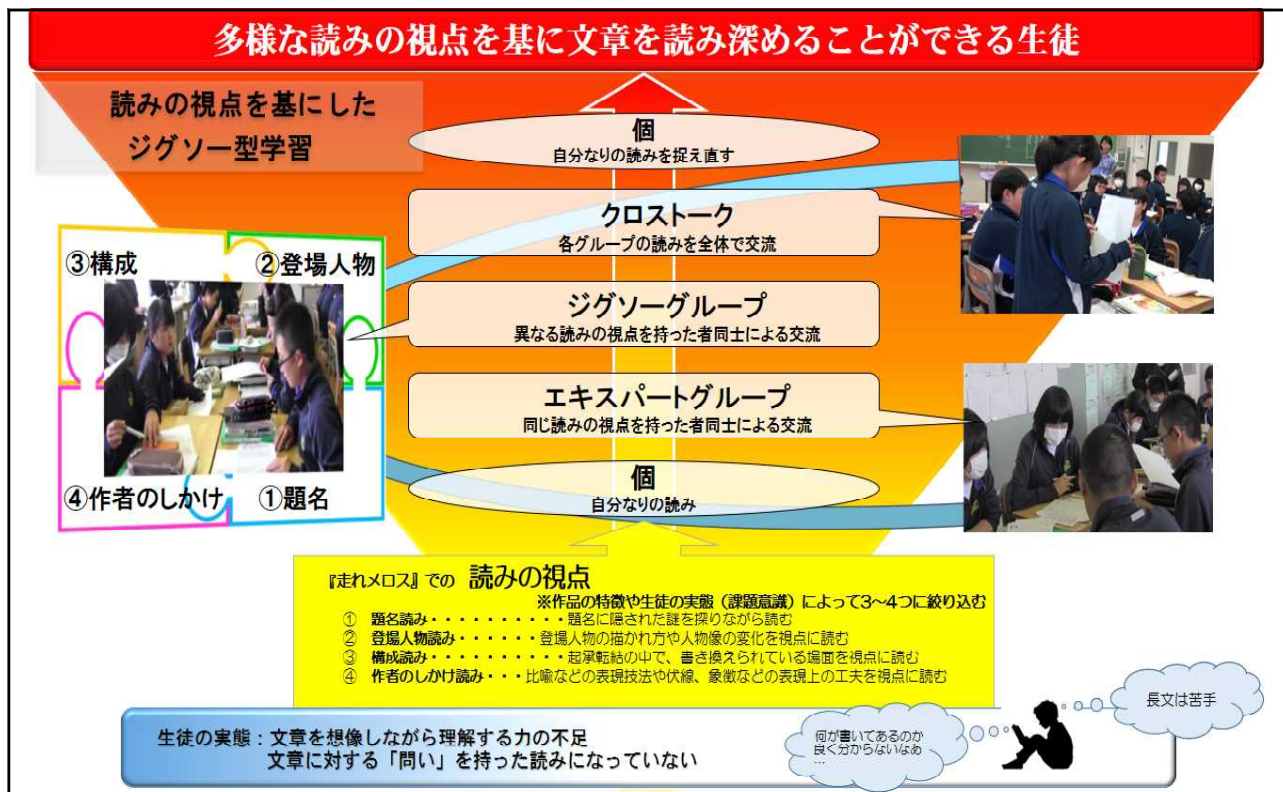
I 研究テーマ設定の理由

平成27年度の全国学力・学習状況調査の群馬県における中学校国語の結果分析によると、県の課題として「文章の特徴や表現の仕方について考えること」が挙げられている。読むことの指導の充実により、作者の表現を主体的に読む力が求められている中で、中学2年生では、解決に向けて伸ばしたい資質・能力として特に「表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめること」が重視されている。

所属校の課題としても、全体的に長文読解に対する苦手意識が強く「長い文章になると、読んではいらぬものの内容が頭に入ってこない」といった声が聞かれる。文章中の叙述に着目して文体の特徴や表現の仕方を捉え、想像しながら理解していく力が不足していることが考えられる。その背景には、文章を読むこと自体が生徒にとって与えられた課題であり、文章に対する「問い」を持った読みになっていないことがあるのではないかと考える。そこで、共通の課題の解決に向けて、読みの視点を基に一人一人が自分なりの読みを持った上で、同じ読みの視点を持った者同士によるエキスパートグループ、異なる読みの視点を持った者同士によるジグソーグループ、各グループの読みを交流し深めるクロストークという過程を経ながら交流し、協働的に読みを深めるジグソー型学習の手法を用いることとした。この学習過程を繰り返しながら読ませることが、読みの力を伸長させることに有効であると考え、本研究テーマを設定するものである。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒は、読みの視点（注1）を基に、1年生の時から読むことにおける文章の解釈の学習を進めてきている。一斉授業の中で、共通の指標となる読みの視点に沿って全体で文章を読むことに始まり、初発の感想で多く挙げられた疑問から、その教材に適した三つから四つの視点に絞り込んで（注2）課題を設定しながら読むこと、また、作品主題を考えるという共通課題に向けて話し合いながら読むこと等を積み重ねてきた。そこで、本研究ではそれらを精査し、多様な読みの視点を得て作品を深く読むために、以下の手立てを通して授業改善を図ることとした。

【手立て】 作品主題を捉えるための読みの視点を基にしたジグソー型学習（P. 6資料参照）

- ①読みの視点の中から、作者の意図や主題を捉えるのに有効な三つから四つの視点に絞り込む。
- ②個々に、作者の意図や作品主題について自分なりの読みを持つ。
- ③エキスパートグループ（同じ読みの視点を持った者同士による交流）
ジグソーグループ（異なる読みの視点を持った者同士による交流）
クロストーク（各グループでの読みを全体交流）
という学習過程を経ながら読みを交流し合う。
- ④最後にそれらの多様な読みを基に、個人の読みを捉え直す。

この手立てを通して、細かな叙述に着目して作品全体を多様な読みの視点から立体的に捉えることができるようになるとともに、他者の読みを通して自分なりの読みを捉え直すことになる。このことは、以後の読むことの学習活動において、読みの視点を基に一人で主題を捉える力や、叙述を根拠に作者の表現意図を探りながら批評的に読む力の伸長へとつながるものである。

注1：「読みの視点」とは、文章の解釈に当たっての指標、読み手の目の付け所を言う。内容は次の通り（題名、設定、登場人物、視点（誰）、構成、あらすじ、クライマックス、象徴、作者のしかけ、主題）。

注2：例として、1年時の『大人になれなかった弟たちに』では、生徒の初発の疑問から多く挙げられた「登場人物」「作者のしかけ」「題名」の三つに絞り込んだ。「なぜ“僕”は、弟の大切なミルクを飲んでしまったのか→登場人物」、「なぜ恐ろしいはずの B29を“美しい”と表現したのか→作者のしかけ」、「なぜ弟はヒロユキ一人なのに“弟たちに”と複数形で書いたのか→題名」のように設定した。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 読みの視点を基に他者と協働で読むことを通して、一つの読みの視点だけでは気付かなかった他者の目の付け所や新たな読みに気づき、叙述に即して文章を読む力を身に付けることにつながった。
- 読みの視点を基にしたジグソー型学習を通して、教室内の他者や作者自身と対話しながら何度も繰り返し作品を読み直し、自分なりの読みを少しずつ変容させていく姿が見られた。また、生徒は課題設定からの読みの視点の絞り込み、ジグソー型学習の話合いなど、多くの場面で主体的に読み進めることができた。

2 課題

- クロストークでの全体共有の場面において、更なる工夫が必要である。複数ある中からいくつかに絞り込んだ読みの視点によるグループ編成のため、絞り込みから外れた視点やグループによる話合いの中で取り上げられなかった読みがあることに触れるとともに、別の新たな読みの可能性があることを認識させ、それらを素材として個での読みの捉え直しに生かせるようにする必要がある。
- 本実践を継続し、読みの視点を基にしたジグソー型学習のプロセスを丁寧に取り上げて指導していくことが必要である。

実践例

- 1 単元名 「太宰のメッセージを探る」～多様な表現に触れて読み、自分の考えをまとめる～
 教材名 『走れメロス』光村図書・『人質』光村図書（第2学年・2学期）

2 本単元（題材）について

『走れメロス』は、自分の身代わりに人質となった友を救う過程で、幾多の困難を乗り越え変容する主人公メロスの言動を中心に描かれる。人間の内面が周囲との関わりの中で形成されていく様子がドラマティックな作品である。単純なストーリーにもかかわらず、読み手の多様な読みを引き出すことができるのが大きな特徴であろう。また、詳細な心理描写で人間の内面を描くという文学的表現に優れたこの作品は、生徒がこれまでに獲得した読みの視点を活かし、多様な視点から読み深めることができるものである。さらに『走れメロス』は、ドイツの詩人シラーによる『人質』という詩が原典になっている。そのため、この両者を読みの視点を基に比較することによって、生徒が表現の違いを見つけ「なぜ表現を〇〇に換えたのか」という作者の表現意図を探りながら読む力を育成する上でも適している。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	複数の読みの視点から、主題を読み深め、筆者の表現について自分の考えを持つ					
評価 規準	関心・意欲・態度	読みの視点を基に『走れメロス』を読み、作者の表現の仕方やものの見方、考え方について自分の考えを持つようとしている。				
	説き	描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて内容の理解に役立てている。『走れメロス』に表われているものの見方や考え方について読みの視点を基に自分の考えをまとめ、交流して深めている。				
	言語についての知識・理解・技能	作者の意図によって文の構成や展開、文体などに違いがあることを理解している。				
過程	時間	主な学習活動				
課題 把握	第1時	・学習目標を知り、単元全体の見通しを持つ。 ・『人質』を読みの視点を基に読み、内容の不明確さに気付く。		○		○
		課題 追究	第2時 第3時	・『人質』と比較しながら『走れメロス』を通読し、気付いたことをガイドシートに記入する。 ・自分なりに読み取った太宰のメッセージを個でワークシートにまとめる。 ・全文シートを使って、『人質』との相違点から、課題解決に向けた読みの視点を選ぶ。 ・四つの視点ごとに作者の表現の意図を読み取る。		
第4時 第5時	・課題解決に向け、読みの視点別にジグソー型学習の形態を取り、多面的な読みの交流を行う。 ・ジグソーグループで話し合ったことをクロストークで全体共有する。 ・作者の意図を理解し、主題を捉え直して書く。				○	
まとめ	第6時		・これまでの学習を通して身に付けたことをガイドシートで整理する。 ・単元全体を振り返り、学習のまとめをする。			○

3 本単元及び具体化した手立てについて

本単元は全6時間計画であり、本時はその第5時に当たる。本時は「太宰は何を伝えたかったのか」という作者の表現意図を多様な読みの視点から読むという課題の解決を図るため、次のように手立てを具体化した。

『走れメロス』に込められた太宰のメッセージを捉えるための「読みの視点」を活用したジグソー型学習

- ・読みの視点を基に『人質』と『走れメロス』の表現の違いを探し、作者(太宰)がなぜその表現に変えたのかを考え、太宰のメッセージ(主題)の捉えにつなげる。
- ・本単元での読みの視点は『人質』と『走れメロス』の比較読みを通して生徒が見つけた表現上の違いから、次の四点に絞り込んだ。(①題名読み ②登場人物読み ③構成読み ④作者のしかけ読み)
- ・四つの視点の中から、生徒が自分で担当する読みの視点を決め、同じ読みの視点を持った者同士によるエキスパートグループ、異なる読みの視点を持った者同士によるジグソーグループ、各ジグソーグループから出された読みを深め、全体で共有するためのクロストークという読みの交流活動をする。
- ・ジグソー型学習の過程で出された多様な読みを基に、自分なりの読みを捉え直す。

①自分なりの読み ……自分なりに作品主題を捉える

個
・『人質』と比較しながら、『走れメロス』を読み、初読段階での「太宰のメッセージ(作品主題)」を捉え、ワークシートにまとめる。

②エキスパートグループ 同じ読みの視点を持った者同士による交流

グループ

- ・『人質』から『走れメロス』に書き換えられた表現を根拠に「太宰が描きたかったものは何か」という課題について話し合う。
- ①題名読み ②登場人物読み ③構成読み ④作者のしかけ読み
- ・フリートーク形式で話し合い、他者の発言の際は全文シートに線を引いたり、メモを取ったりしながら聞く。

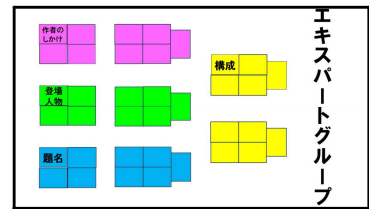


図1 エキスパートグループ

③ジグソーグループ 異なる読みの視点を持った者同士による交流

グループ

- ・「〇〇読みの視点から読むと、～と書いてあることから、太宰は～を描きたかったのだと思います」という話型で話す。
- ・発表ボードにグループの考えをまとめて書く。個人のワークシートにも班の考えを書き込んでおく。

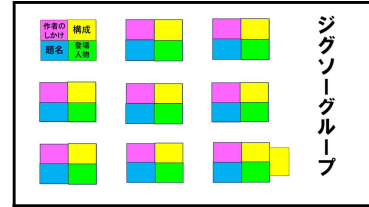


図2 ジグソーグループ

④クロストーク 各グループの読みを全体で交流

全体

- ・発表ボードに書かれた考えや発表される考えが、どの読みの視点からのものか等を考える（視覚的に捉えやすくするため、教師は、視点ごとに色を変えて線を引きながら適宜取り上げ、全体共有させる。まとめる過程で取り上げられなかった考えも表現してよい場であることを伝えておく）。
- ・この過程で出された考えを基に、参考になった考えをワークシートに加除修正する。

⑤個による捉え直し 多様な読みを基に、自分なりの読みを捉え直す

個

- ・ワークシートや黒板に残された多様な読みを参考にしながら、もう一度個人で自分なりの読みを捉え直し、ワークシートに「太宰のメッセージ」としてまとめる。

4 授業の実際

前時まで個人で、太宰が書き換えた表現と、その表現に書き換えることで太宰が描きたかったことをジグソー型学習シートにまとめさせておく。

課題 『走れメロス』に込められた太宰のメッセージを探る

②エキスパートグループ (題名読み) でのS1の様子

S1: 『人質』に比べて『走れメロス』は「信じる」ことについて多く書いてあると思う。『人質』は、ただ友達の命を救うために走るだけだけれど『走れメロス』は、“友のために” “信じられているから” “王を改心させるために” など、いろいろな走る意味があるから、この題名にしたのだと思う。

S2: そうか。(私は) 単に人質を助けるためだと思っていた。

S3: なるほど。『人質』は友達のためだけか。『走れメロス』は、友達のためだけじゃなくて、王を見返すためだね？

S1: 『人質』は、単に「友達が助かって良かった」で終わるけど、『走れメロス』は…。ちょっとここを見て。(全文シートを見せながら) 『走れメロス』は友を助けて王を見返してやろうという物語でしょ。『人質』も『走れメロス』も「おまえ達の望みはかなったぞ」という王の言葉が終わりがあるけど、この二つの“望み”は違うと思う。『人質』の“望み”は、友を助けることで、『走れメロス』の“望み”は、友を助けて王を見返してやること。だから、同じハッピーエンドでも終わる理由が違ってくると思う。伝えたいことは、“信じることの大切さ”…とかだよな？

— 上記S1がジグソーグループに移動した後の話し合いの様子 —

③ジグソーグループ でのS1の様子

S4: 私は作者のしかけ読みをしました。『人質』では、王の顔は「陰悪」と書いてあったのですが『走れメロス』では「蒼白」と書いてあります。そこから、王を心が冷めてしまった、人を信じられない悲しい人物として描きたかったのだと思います。それから、最後の場面で王は「顔を赤らめ

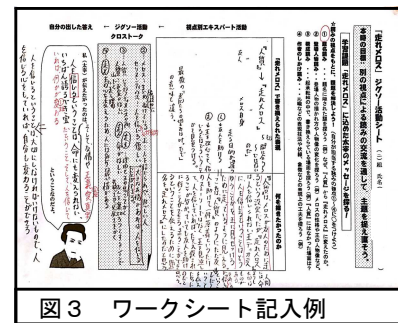


図3 ワークシート記入例

て」とあります。太宰は、色を使って王の心が変わったことを描きたかったのだと思います。

S 5：私は、登場人物読みをしました。王が山賊にメロスの命を奪うよう命令したような表現があることから、王も心のどこかでは、メロスが戻ってくると信じていたのではないかと思います。あと、フィロストラトスに走るのを止めるようにと言われた時も、走るのを止めなかったのは、王に人を信じさせたかったからだと思います。

S 6：人には人を信じさせる力があるってことを描きたかったのかな？

S 1：私は、題名読みをしました。『人質』は、友を助けるために走るという意味だけど、『走れメロス』は王に人を信じることの大切さを教えて、王を見返すという意味もあると考えました。「もっと恐ろしく大きなもののために走っている」は王のためなのではないかと思います。

S 5：王のためってどういうこと？

S 1：王の冷たい心を温かくするため。冷たい、人を信じられない王に、信じることの大切さを伝えるためだと思います。

S 6：私は構成読みをしました。メロスは疲れ切って友達を裏切ろうとしたけど『人質』ではそんなシーンはなかったことから「人は弱くあきらめそうになるが、苦労や困難を乗り越えることで強くなれる」と描きたかったのだと思います。

人には、過去に辛いことがあったり、弱さや醜さがあっても、何かのきっかけがあれば変われると描きたかったのだと思います。

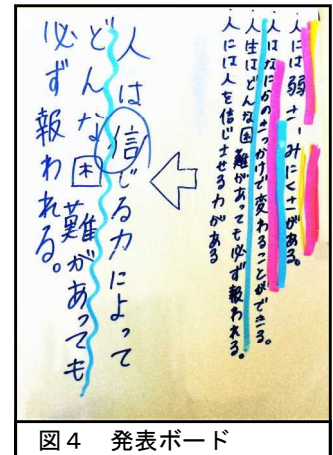


図4 発表ボード

②のエキスパートグループでは、同じ読みの視点を持った者同士での話合いのため、他者の発言に対する理解度が高く、質問を重ねながら読みを深めていく様子が見られた。S 1は、ジグソーグループにおいて、エキスパートグループでのS 3の読みを受け「王を見返す」という読みへと変容した。

③のジグソーグループでは、異なる読みの視点を持った者同士で読みを伝え合うことで、内容の深い多様な読みになっていく様子が見られた。生徒たちは、それぞれの視点から出された読みの中から「信じる」という共通のキーワードを捉え、主題を読み取ろうとしていた。題名読みを担当したS 1は「王を見返すために走る」という読みから、ジグソーグループでの話合いの後「命よりも大切な“信じる”ということのために走る」という読みに変化した。さらに、クロストークの中で他の班から出された読みを基にして、再度太宰のメッセージを捉え直したことで「人を信じるということは、大切にしなければならないもので、人を信じる心を持っていれば自分も変わることができる」という読みへと変容した。

5 考察

以上の手立てを通して、生徒たちは次のように変容した。

- (1) 読みの視点を基にしたジグソー型学習を通して、表現に即して作者の意図を考えながら、複数の多様な視点から読むことができるようになり、文学作品や作者に対して面白さを感じる生徒が増えた。
- (2) 初見の文章に対し、読みの視点に即して線を引いたり、キーワードを探しながら読もうとする姿が見られ、自分なりの読み方を身に付けつつある生徒が増えた。
- (3) 異なった読みの視点からの読みや、他者の目の付け所を自分の読みの参考にすることで、自分なりの読みを捉え直すことができ、より深く作品主題を考えることができる生徒が増えた。

これらの変容の他にも、他者と協働的に読む、読みの視点を基にしたジグソー型学習を通して、複数の読みの視点を得たり、他者の読みに触れたりして読みが深まることを実感し、主体的に授業に取り組む姿が多く見られるようになってきた。これまでの授業とは違い、協働的に読み深める学習過程が、生徒にとって取り組みやすく楽しい学びになっていることがうかがえた。教師により一方的に問いや答えが与えられる授業ではなく、生徒自身が読みの視点を持って問いを設定し、他者と協働で読みを構築していく過程の中に、生徒たちの読みの深まりがあったと考えられる。

6 資料

(1) 作品主題を捉えるための読みの視点を基にしたジグソー型学習

読みの視点を基にしたジグソー型学習とは、東京大学発教育支援コンソーシアム推進機構(CoREF)による「知識構成型ジグソー法」のグループ学習形態を適用し、文章の解釈のための「読みの視点」を基に、学習課題に向かわせる学習方法を、ジグソー型学習と呼ぶこととしたものである。

(2) 本実践で使用したワークシートと記述内容

- 学習ガイドシート (図5)
- ジグソー学習シート (図6)

Figure 5 is a worksheet titled "学習ガイドシート" (Learning Guide Sheet) for the book "走れメロス" (Walk Me Los). It is divided into several sections:

- 初読の時点で捉えた主題** (Theme identified at the first reading): A table with 6 rows and 1 column, containing specific themes for each chapter.
- 初発の感想、気づき(疑問など)** (Initial feelings, insights, etc.): A section for students to write their thoughts.
- 単元の目標** (Unit goals): A box containing the unit goals.
- 学習計画 (本時の目標と学習内容)** (Learning plan): A section for the lesson's objectives and content.
- 振り返り(一時間ごと)** (Review): A section for reviewing the lesson.

There are also callouts and instructions, such as "「走れメロス」に込められた太宰のメッセージを探る!" (Find the message hidden in 'Walk Me Los'!) and "単元全体の振り返り" (Review of the entire unit).

図5 学習ガイドシート

Figure 6 is a worksheet titled "ジグソー学習シート" (Zigzag Learning Sheet) for "Walk Me Los". It details the learning process:

- 自分の出した答え** (My answer): A section for students to write their answers.
- ジグソー活動 クロストーク** (Zigzag activity Cross-talk): A section for group discussion, with an example of a student's answer: "私(太宰)が伝えたかったのは、とじつはただよ." (What I wanted to convey was, in fact, just wandering.)
- 視点別エキスパート活動** (Viewpoint expert activities): A section for students to become experts on different viewpoints. Examples include:
 - 根拠となる本文の叙述** (Textual evidence): "『走れメロス』で書き換えられた表現" (Expressions rewritten in 'Walk Me Los').
 - 根拠を基に担当した読みの視点から捉えた主題** (Theme identified from the assigned reading viewpoint): "太宰は何を描きたかったのか" (What did Izumi want to draw?).
- 振り返り** (Review): A section for reviewing the lesson.

At the bottom, there are numbered steps: ①個人でまとめ (Summarize individually), ②エキスパートグループ (Expert group), ③ジグソーグループ (Zigzag group), ④クロストーク(加除修正) (Cross-talk (addition/deletion/correction)), ⑤個による捉え直し (Re-read individually).

図6 学習ガイドシート

〈参考〉

- ・三宅なほみ・東京大学CoREF・河合塾 編著『協調学習とは一対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業―』北大路書房
- ・難波博孝・尾道市立因北小学校 著 『ジグソー学習を取り入れた文学を読む力の育成』(国語科・授業 改革双書)明治図書
- ・平成28年度長期研修員 早川留美子教諭 「小学校国語科における想像を広げて読む力の育成―読みの視点を取り入れたジグソー型学習を通して―」